

病害虫は夏だけでなく、秋冬野菜にも被害を及ぼします。

「菌核病」は葉や実に大きな被害を及ぼし、最後には枯死してしまいます。土壌だけでなく空気から感染し、いつの間にか圃場全体が感染してしまうので、早めの防除を行い、よい作物を栽培しましょう。

今回は、「菌核病」に適した農薬をご紹介しますが、その前にちょっとしたアドバイス!

初期症状では菌核病に似た症状の病気に灰色かび病があります。発生時期もほとんど同じなのですが、菌核病は主に茎に発生し、病斑上に白い綿状の菌糸がでます。また、灰色かび病は主に葉、花、実などに発生し、病斑上に灰色のカビが密生するという違いがあります。

今回紹介する農薬は両方の病気に効果があります。登録作物等を確認したうえで適切な使用方法でバッチリと防除しましょう。思っていた病気と実は違う場合もありますので、農薬を散布する前には必ずその病気の症状をよく観察して下さい。



営農経済課
藤井 拓也



◎発生時期：11月（秋から冬にかけて）

◎発生箇所：主に葉に発生する。

実もの野菜（キュウリ・ナスなど）には実にも発生する。

◎病 状：茎や葉に病斑が発生し、軟化・しおれる。

進行すると果実に転移、綿状の菌糸が発生する。

◎防除ポイント：①**発生初期に薬剤散布を行う。（予防散布が効果的!）**

②被害株は菌核（黒い種のようなもの）を形成する前に処分する。

③水や泥を跳ね上げると土壌感染しますので、マルチ等で防止しましょう。

殺菌剤

アミスター20フロアブル

250ml



4,342円(税込)

- 各種野菜のさまざまな病害に高い効果を発揮します。
- 雨に強く、浸透移行性に優れており、作物全体を守ります。
- フロアブル製剤で調製が容易なので、使いやすくなっています。

※価格は当時のものとなります。